

DX時代に問われる、 「つながり」を創り続ける 顧客接点とは？

LTV発想のCMS

SITE PUBLIS  **Connect**

株式会社サイト・パブリス
<https://www.sitepublis.net/>

株式会社サイト・パブリスについて



2003年発売
純国産の商用版CMS



あらゆる業種・業態・
会社規模に対応できる
ラインナップ



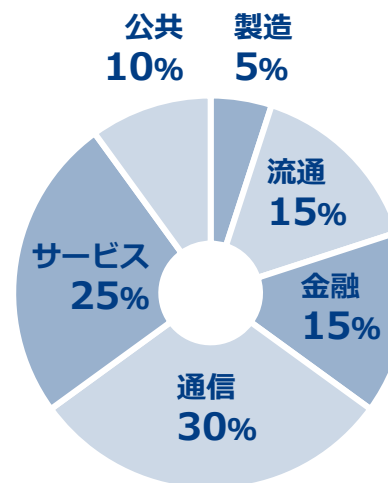
自社で開発・保守・
サポートを行う

20

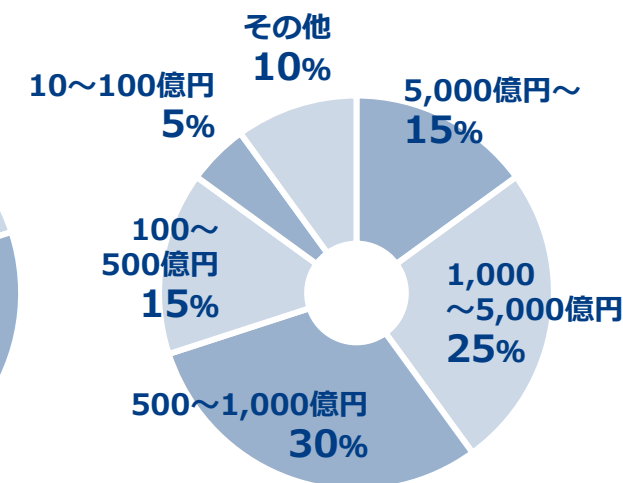
20年以上の
発売実績

630

630社・団体以上の
導入実績



業種別 売上比率



企業規模別 売上比率

国産CMSとして20年間培った信頼と実績

SITE PUBLIS は、大手企業、官公庁・自治体、教育機関など幅広いお客様にご利用いただいています



大手テーマパーク様

インハウスシステム連携

導入前の課題

- 日々変動する情報を手作業で修正
- サイト運用が専任担当者へ集中
- 多言語サイトも手動で運用

導入後の効果

- 情報更新の自動化を実現
- 専任担当者の運用負担を軽減
- 多言語サイトも運用システムと連携

大手流通・小売企業様

インハウスシステム連携

導入前の課題

- タイムリーな情報発信ができない
- 情報更新の効率が悪く、管理負担が大きい
- 商品情報の一元管理が行えない

導入後の効果

- 多段階公開機能で正確・迅速な運用を実現
- 情報更新の効率が上がり、運用負担を軽減
- 商品データベースとの連携で、各所の表示を統一

1

安心感

▶ 国産の商用版CMSとして、脆弱性への対応などにたいして開発元として弊社日本人スタッフがサポート

2

操作性

▶ みたまま編集機能による使いやすさ、運用のしやすさ

3

拡張性

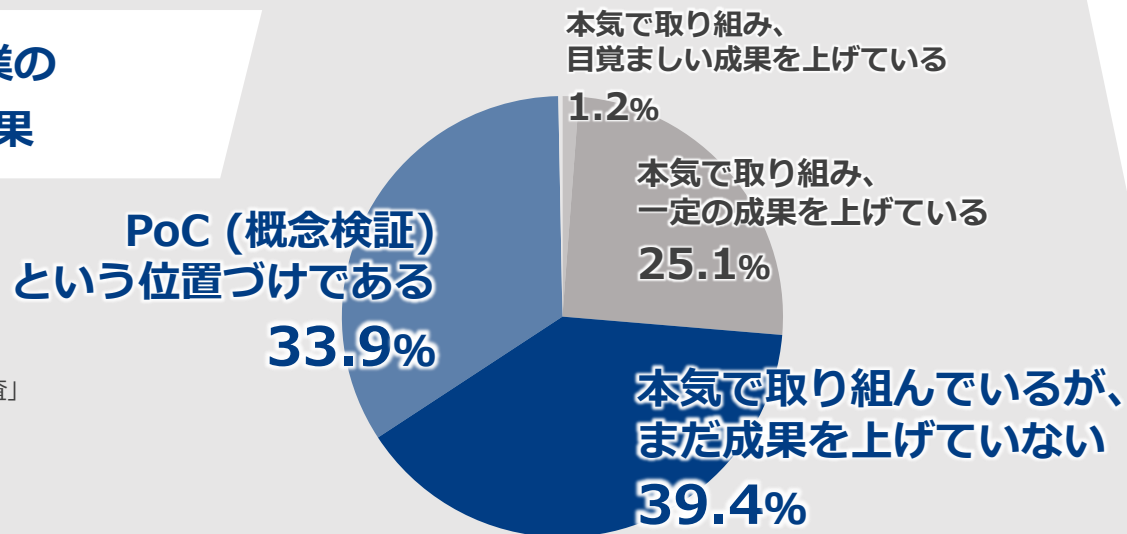
▶ 全ての要素を「ブロック」にて構成しており、デザイン面でも、外部との連携においてもブロック単位で拡張・追加が可能

DXへの取り組み

DX推進企業の本気度と成果

(n=327)

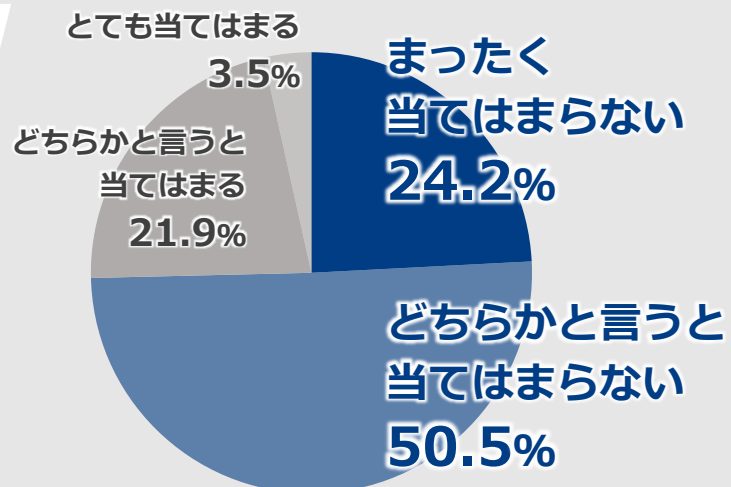
出典：
日経BP総研、
国内900社の
「デジタル化実態調査」
2019年11月25日



BI・マーケティングツールを使いこなせているか?

(n=434)

出典：
株式会社ベーシック、
マーケティングのキャリアについての調査
2020年4月7日



最新のツールやサービスを
導入することだけが

DXではない

ツールやサービスを
最大限に活用し、
真価を発揮できなければ
意味がない

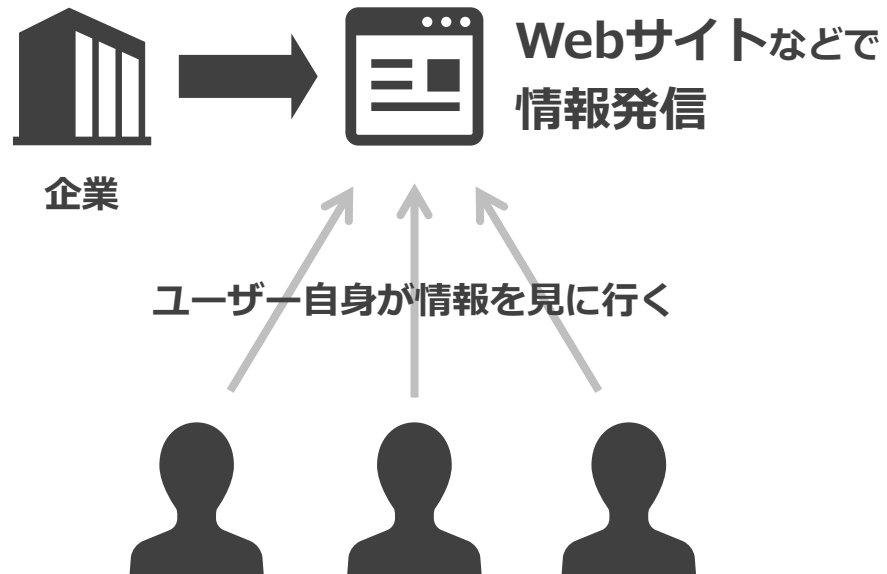
DXにおける提供価値



LTV = Life Time Value の最大化

顧客とのタッチポイントと、LTV (Life Time Value = 顧客生涯価値)

これまで：一方的な接点 (タッチポイント)



タッチポイントが少なく、顧客体験が向上しない
↓
LTVが低い = 企業も成長しない

これから：多様化する接点 (タッチポイント)



さまざまなタッチポイントで、顧客体験が向上
↓
LTVが最大化する = 本質的な企業成長に

顧客とのタッチポイントへの問題提起

1

今後はメタバース・VRも
身近な存在となり、行動や
顧客獲得フローはより複雑化

2

タッチポイントの変化に
毎回対応し続けていくことや
情報発信を続けることは大変

3

DX時代の拡大し続ける
タッチポイントに大事なものは
「つなげる」こと

これから：多様化する接点 (タッチポイント)



さまざまなタッチポイントで、顧客体験が向上



LTVが最大化する = 本質的な企業成長に



Content Management System

Webコンテンツを管理するためのシステム

顧客接点が重要視される時代だからこそ



Connecting Management System

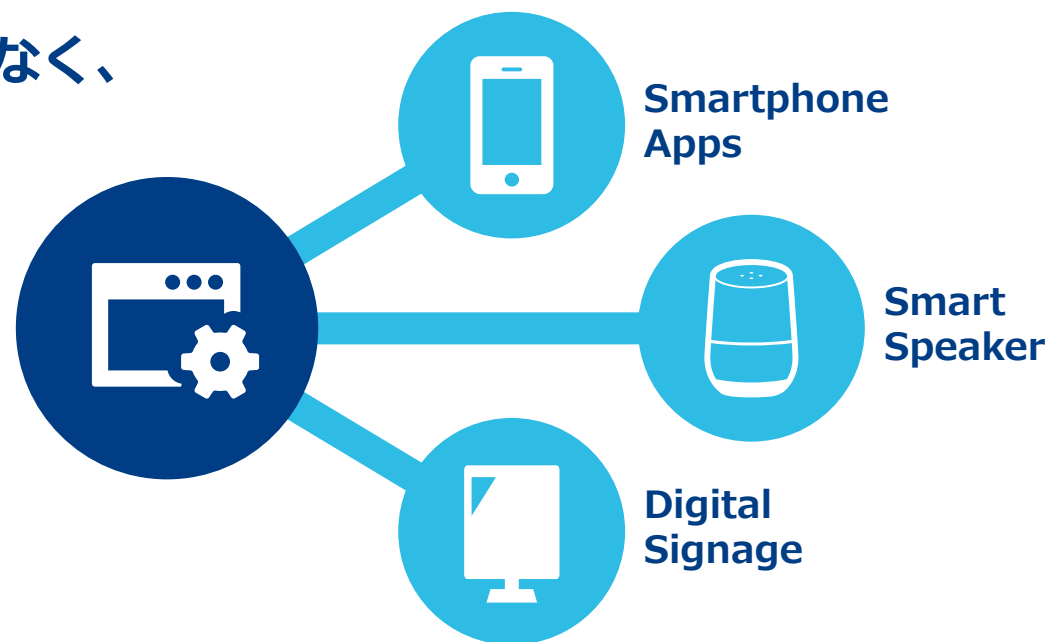
さまざまなサービスやシステムとの連携 = **Connect**を実現するシステム

つながる、伝える、進化する

SITE PUBLIS Connect

タッチポイントを拡げることがゴールではなく、
そこからが本当のスタートです

SITE PUBLIS Connect は、
さまざまなデバイスや外部サービスとつながることで、
最適な情報を的確に伝えるためのサポートをします。
そして、自身が持つ柔軟性と拡張性によって、
進化し続けていきます。



SITE PUBLIS Connect の操作性は？

「見たまま編集」機能で簡単に編集

The screenshot displays the SITE PUBLIS Connect editor interface. On the left is a sidebar with a search bar and a tree view of the site structure, including folders like 'サイト' (Site) and 'img', and pages like 'はじめに' (Introduction), 'お問い合わせ' (Contact Us), and 'プライバシーポリシー' (Privacy Policy). The main editing area shows a header with the SITE PUBLIS Connect logo and navigation links for 'INTRODUCTION', 'BASIC', 'ADMIN', and 'CODING'. Below the header is a 'くり返しブロック' (Repeatable Block) containing a rich text editor with a toolbar and a content block. The content block features the headline 'つながる、伝える、進化する' (Connect, Communicate, Evolve) and a paragraph of text: '変化が求められるDX（デジタル・トランスフォーメーション）の加速や、流動的に変化する日々の課題や運用に対応するためのエントリープラットフォームとして、高い拡張性を持つCMS（コネクティング・マネジメント・システム）である SITE PUBLIS Connectをご紹介します。' (Acceleration of DX (Digital Transformation) where change is required, and as an entry platform to respond to daily issues and operations that change fluidly, we introduce SITE PUBLIS Connect, a CMS (Connecting Management System) with high scalability). At the bottom of the content block is a button labeled 'サービスに関するお問い合わせ' (Contact Us for Service Information).

CMSを進化させる、SITE PUBLIS Connect とは？

従来型CMS



管理者
・
編集者

CMSの管理画面



バックエンド
(コンテンツの管理)
データベース

+



フロントエンド
(見た目の管理)
Webサイト

- コンテンツを管理するバックエンドと見た目を管理するフロントエンドが1つのCMSの中にまとまっている
- コンテンツ (フロントエンド側) は、バックエンド側のルールに合わせて作成する必要がある

ヘッドレスCMS



管理者
・
編集者

CMSの管理画面



バックエンド
(コンテンツの管理)
データベース

API



外部データ
店舗データ・顧客データなど

API

フロントエンド



Webサイト



モバイルアプリ



音声デバイス

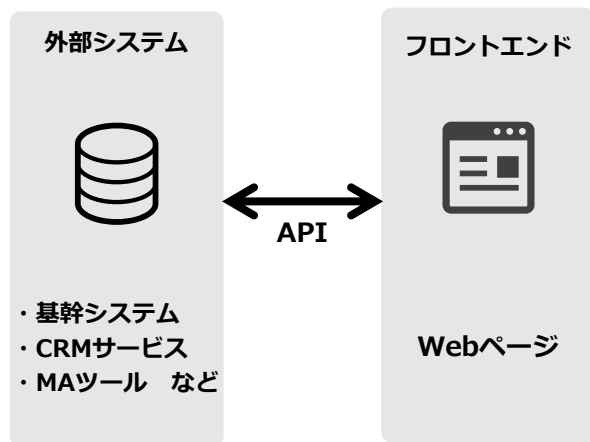


店舗サイネージ

- ヘッドレスCMSでは、一般的にコンテンツを管理するバックエンド側の機能のみがあり見た目を管理するフロントエンド側の機能は存在しない
- 見た目側 (フロントエンド側) は、Webサイトだけでなく、モバイルアプリ、音声デバイス、店舗サイネージなど、さまざまなデバイスにコンテンツを表示できる
- CMSの管理者・編集者は、コンテンツを作ることに集中できる

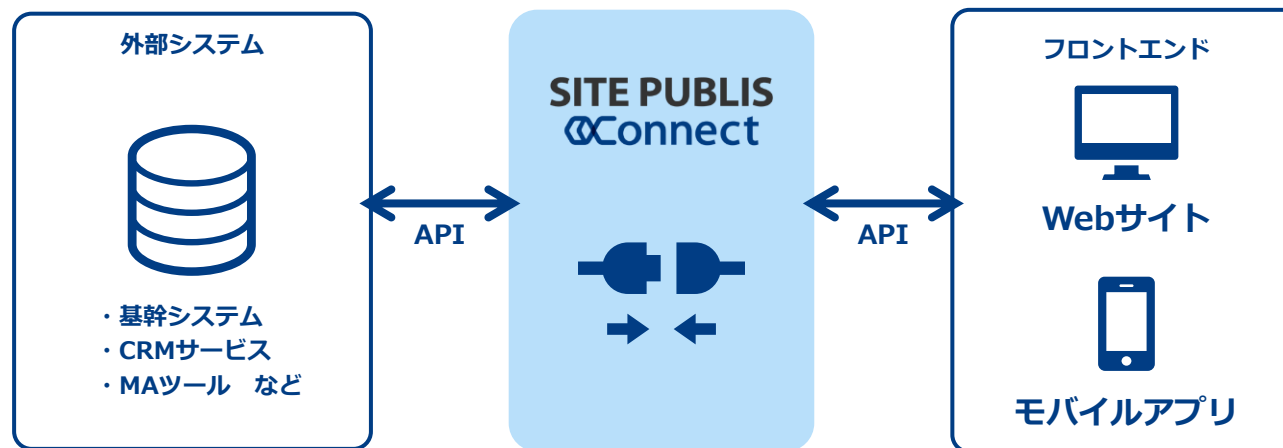
データ連携を推進する SITE PUBLIS Connect

通常の日データ連携



- 外部システムに合わせてWebページ側をカスタマイズしてデータを連携
- フロントエンド側の表示の変更、修正に際しても外部システムのルールに合わせて実装する密結合な構築になっている

SITE PUBLIS Connect のデータ連携



- SITE PUBLIS Connect を介したデータ連携を行うため、外部システムとフロントエンド側それぞれが独立した疎結合な構築が可能
- フロントエンド側は、Webサイトだけでなく、モバイルアプリなど、さまざまなデバイスとのデータ連携が実現できる
- 疎結合によって、利用する外部システム・ツールの選択肢の幅が広がる

SITE PUBLIS Connect で解決できる課題



ブランディング

お客様に、企業コンセプトや製品価値を伝えられていない

ブランドやサービスごとにサイトが分かれていると、**ブランディングの統一**が難しくなります。**情報構造を一元化**すれば、工数を削減しながら統一したメッセージを発信することが可能になります。また、**タッチポイントを拡大し、より幅広いブランドメッセージの発信**が可能になります。



集客

マルチデバイス対応ができておらずユーザーの取りこぼしがある

SNSやスマートフォンアプリ、デジタルサイネージなど、**コンテンツの配信先が多様化**しています。SITE PUBLIS Connect なら、従来のWebサイトへの配信だけでなく、そのコンテンツを、ほかのさまざまなデバイスに**ワンストップで流用**することが可能です。



リソース

社内ガバナンスが効いておらず更新時のヒューマンエラーも多い

サイト運営に複数部署・メンバーが関わる場合、その**組織に合った承認フロー**を設定する必要があります。SITE PUBLIS Connect なら、**最適なワークフロー**を設定し、随時確認を行いながら、**ヒューマンエラーを回避**することが可能になります。



データ連携

商品情報・顧客情報などのデータ連携ができていない

たとえば商品データベースを店舗ごとやブランドごとにお持ちの場合、新製品の発売時には、各データベースを修正し、**サイトやSNSで情報発信**する際にはそれぞれを更新しなければなりません。SITE PUBLIS Connect なら、**基幹システムから情報を抽出**し、API経由で、**各メディアへ情報を反映**することが可能ですので、**従来の工数やコストが削減**できます。

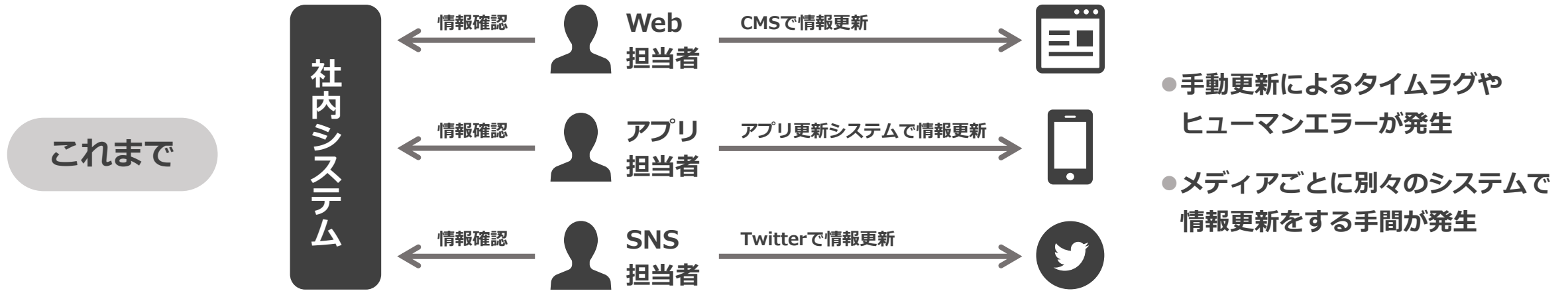


コスト

サイト運用費・外注費が高く内製することが難しい

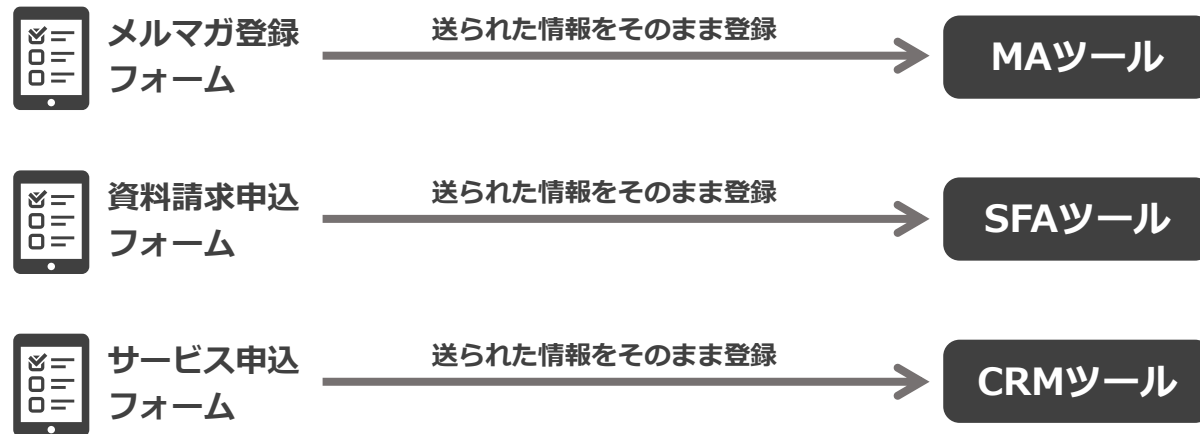
直感的に更新作業を行える「**見たまま編集**」や、よく使うページを登録できる「**ひな型**」など、**日々の運用に最適な機能が充実**。サイト運用を内製化することで、**コストが削減**できることはもちろん、**整合性のある情報の発信**ができるようになります。

ケーススタディ ◆ 情報配信の自動化



ケーススタディ ◆ 顧客情報連携の自動化

これまで



- 各フォームと各ツールが1対1で対応している
- ツールを他社のものに変えると、フォームも作り変える必要がある

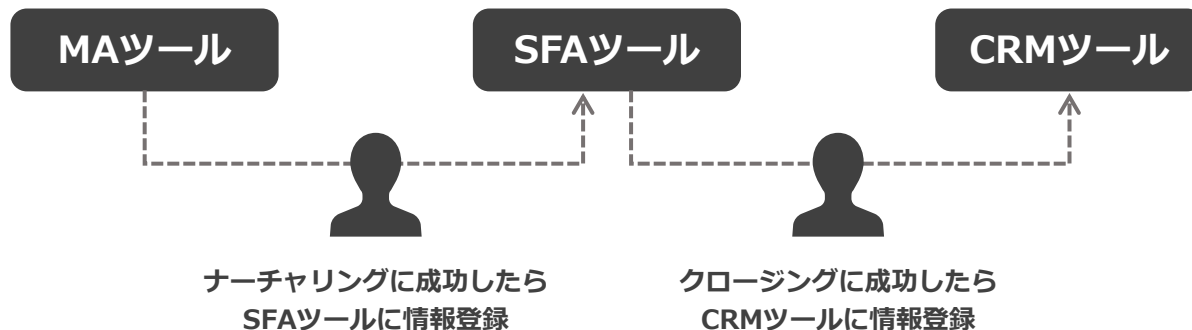
これから



- 各フォームから送られた情報をSITE PUBLIS Connectが自動的に各ツール用のデータに変換
- ツールを他社のものに変えても、フォームなどはそのまま活かせる

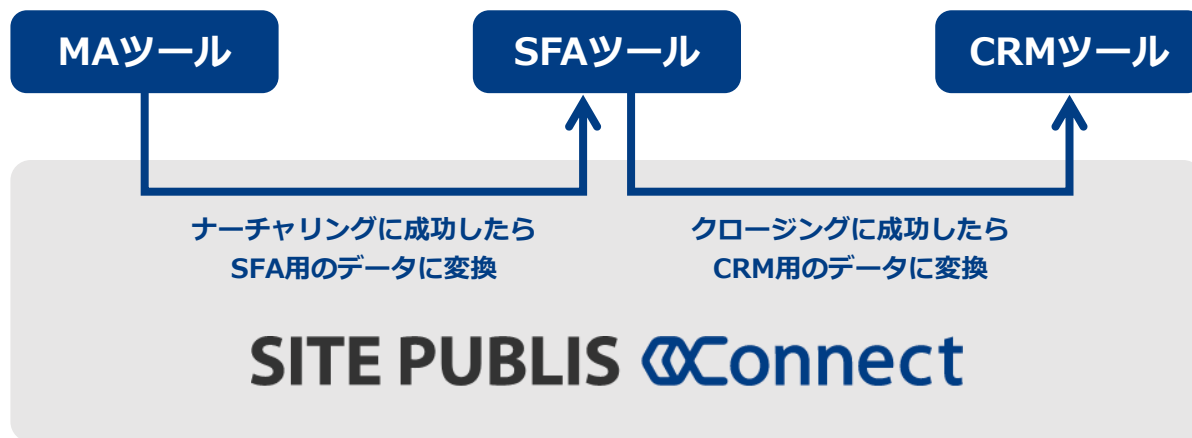
ケーススタディ ◇ 顧客情報連携の自動化

これまで



- ツール間の情報連携が難しく、ステップが進むたびに担当者の手間が発生

これから



- ツール間のデータ連携は SITE PUBLIS Connect を介しデータ変換が可能
- 担当者の手間を大幅に削減

つながる、伝える、進化する

SITE PUBLIS Connect



一番大事なのは、さまざまなサービスやツールをつなげること



顧客体験の質を向上させ、LTV（顧客生涯価値）を最大化すること



DX推進のエントリープロダクトなら、SITE PUBLIS Connect

会社概要

| | |
|------|---|
| 会社名 | 株式会社サイト・パブリス |
| 設立 | 2017年 9月 4日 |
| 資本金 | 9,200万円 |
| 代表者 | 代表取締役 二通 宏久 |
| 主要株主 | <ul style="list-style-type: none">● 株式会社ソフトフロントホールディングス (60.71%)● 株式会社オセアグループ (39.29%) |
| 所在地 | <ul style="list-style-type: none">● 東京本社 : 東京都千代田区九段南1-4-5 泉九段ビル4F● 福岡オフィス : 福岡県福岡市博多区祇園町2-35 プレスト博多祇園ビル2F |
| 事業内容 | <ul style="list-style-type: none">● Web系製品・サービスの企画・開発および販売● Webサイト構築および活用支援 |

サイト・パブリスは、Web基盤ツール (CMS) を事業ドメインの中核と位置づけ、事業展開を行っています

サービスについてのお問合せは
お気軽にお声がけください

LTV発想のCMS

SITE PUBLIS  **Connect**

株式会社サイト・パブリス
sales@sitepublis.co.jp